

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 8 月 25 日

【評価実施概要】

事業所番号	4071001178		
法人名	有限会社 光		
事業所名	グループホーム 南薬院		
所在地	福岡市中央区警固3丁目2-28 〒810-0023 (電話) 092-752-5085		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年8月19日	評価確定日	平成21年9月7日

【情報提供票より】(平成 21 年 7 月 25 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人	非常勤 2 人 常勤換算 8.1 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての～ 1,2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(300,000 円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,400 円程度	

(4) 利用者の概要(7 月 25 日現在)

登録人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護 1	2 名	要介護 2	1 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	0 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	75 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西通りクリニック 黒岩歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

街の中心部へと続く幹線道路から1本入った住宅街にあり、敷地を囲む竹塀からは純和風の趣きが漂い、ウッドデッキにさりげなく置かれた玉葱や庭先に干された洗濯物など、何気ない光景がホッと心を和ませてくれる。家族に対してホーム理念の説明と理解を図り、職員・利用者・家族が大きな一つの家族として、それぞれの個性を発揮し、共に支えあいながら楽しく暮らしている。開設から5年目を迎え、利用者のADL等の低下に伴い、ホーム全体での外出や地域行事等への参加が難しくなる中、利用者の“今”を受け止め、自分らしく生き生きと暮らしていくための個別支援がなされている。今後も、地域とのかかわりを大切にしながら、利用者の視点にたった質の高いケアへの取組みが期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の結果については、運営推進会議等を利用して、地域の方々や職員へ報告を行った。利用者の状態変化に伴って、より一層の個別支援への取組みが行われている。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 今回の受審にあたり、全職員に自己評価を記入してもらうなど、全職員がかかわったの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 町内会長、民生委員、公民館長、地域包括支援センター職員、家族・利用者等の参加により2ヶ月毎の開催がある。事業所からの様々な報告の他に、外部評価結果についての報告、町内で行われる行事や催し物についての情報提供等が行われている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族面会時の声かけ、その都度の電話での報告、介護計画書の作成時、担当職員による状況報告を記載した“たより”の送付などを通じて、様々な報告や暮らしぶりを知らせ、家族の意見や思いの表出に努めている。出された意見や思いなどは、介護計画書に反映させての支援がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域行事や地区高齢者の集いへの参加、日々の買物を通じて地域とのかかわりがある。消防訓練時に町内会長の参加が見られたり、緊急時の避難場所として近隣の会社との連携を図ったりしている。また、ホーム行事に近隣住民や近隣の会社の方が参加するなど、地域との交流が行われている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設当初から地域を意識した理念を作成して いる。利用者の状態の変化に応じて、利用者 の立場にたって、利用者の今を受止め、地域のな かで生き生きと暮らしていくための支援が行わ れている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	玄関ホール及び事務所に理念が掲示されて おり、自然と目につく工夫がある。利用者の状 態の変化に伴って、いかに日々のケアの中で理 念の実践が出来るのかを常に課題として意識し ながら、ケアへの取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	地域行事や地区高齢者の集いへの参加、日々 の買物、近隣住民や近隣にある会社の方のホー ム行事への参加など、日常生活の中で交流が行 われている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の結果については、運営推進会議等を利用 して地域の方々や職員へ報告を行った。利用 者の状態変化に伴って、より一層の個別支援へ の取組みが行われている。今回の受審にあたり、 全職員に自己評価を記入してもらうなど、 全職員がかかわっての取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取り組み状況等につ いて報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、公民館長、地域包括支 援センター職員、家族・利用者等の参加により 2ヶ月毎の開催がある。事業所からの様々な報 告の他に、外部評価結果についての報告、町内 で行われる行事や催し物についての情報提供等 が行われている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会 議以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員が 参加しているほか、グループホーム協議会での 研修等を通じて行政担当者とのかかわりがある。 また、行政担当者との日常的な相談や助言 など、質の向上に向けた連携が図られている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事 業や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	家族に対しては、状況を見計らった説明が ある。職員に対しては、各種研修案内を提示し て参加を募っているも、参加の機会が少ない。		制度等について、職員の理解を深め浸透を 図るための取り組みを期待します。また、運営 推進会議等を利用して、定期的に情報提供の 機会を設け、広く情報を発信し、制度の正しい 理解と周知に努め、必要な時に確実に利用 できるような支援を期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につ いて、家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	家族面会時の声かけ、その都度の電話連絡、 運営推進会議時での説明、担当職員による状況 報告を記載した“たより”の送付などを通じ て、様々な報告や暮らしぶりを知らせる取組み がある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	家族面会時や運営推進会議時、その都度の電 話連絡、介護計画書の作成時等に、家族の意見 や思いの表出に努めている。出された意見や思 いなどは、介護計画書に反映させての支援があ る。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、 代わる場合は、利用者へのダメージを防 ぐ配慮をしている	職員の入れ替わりは1年間で1名であり、利用 者と職員との馴染みの関係が継続して構築され ている。新しい職員が入職した場合は、試用期 間を2ヶ月設け、試用期間中は夜勤は2名体制で 行うなど、利用者のダメージを防ぐ取組みがあ る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用に関しては、年齢や性別等による制限はなく、ホーム理念を真に理解し、人生の先輩である利用者に敬意を払ってケアに携われるかを重んじている。様々な資格取得に向けた支援体制がある。日々の献立等は、職員に任せられており、職員間で教え・学びあうなど、特技や得意分野での能力を發揮できるような配慮がある。</p>		
12	20 追加	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>各種人権に関する研修への参加を通じて、人権研修・啓発活動への取り組みがある。研修参加後は、ミーティング時に報告するなど、職員の人権意識を喚起する取り組みがある。</p>		
13 (10)	21 (19)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修案内を事務所に掲示して参加を募ったり、内容によっては職員を指名するなど、各種研修への参加機会がある。また、研修参加後は、ミーティングにて報告を行い知識の共有に勤めている。</p>		
14 (11)	22 (20)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会主催の研修、ブロック別の勉強会や合同行事等への参加を通じて、職員レベルでの交流・情報交換が図られている。</p>		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前のホーム見学や体験利用などを通じて、利用者の状態を把握し、ホームとして体制を整えてから迎え入れるなど、安心して入居後の生活に馴染めるような仕組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々のかかわりを通じて、人生観や生き様など、精神面での学びを得ている。また職員は、人生の先輩として尊敬する姿勢を崩すことなく接しており、利用者と職員がねぎらいの言葉をかけ合うなど、支えあう関係が構築されている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりや家族面会時、その都度の電話連絡、“たより”の送付などを通じて、利用者・家族の思いや意向等を把握している。把握した思いや意向等は、介護計画へ反映させるなどの取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の思いや意向等を基に、担当職員・計画作成担当者が介護計画書を作成し、担当者会議にて他の職員と協議し、介護計画へ反映させるなどの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月のミーティング時に、ケアチェック表と 介護計画書を照らし合わせながら、全職員によ る情報交換や共有が行われている。また、3カ 月毎及び状態変化時等は、介護計画書の再作成 や見直しが行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	ご利用者と配偶者との食事への送迎、お寺へ の参拝支援、ホームを退去した利用者の様子伺 い、親族の葬式への参列への支援など、利用者 一人ひとりの希望に沿った柔軟な支援が行われ ている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時にかかりつけ医の継続について相談 し、利用者・家族の希望に沿った支援がある。 基本的に、今までのかかりつけ医への受診は家 族対応である。必要に応じて専門医療機関との 連携を図るなど、適切な支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	その時々状況によって、利用者本人にとっ て何が幸せかを家族と相談・検討しながらの対 応がある。その時々で利用者に意向を聞 いたり、キーパーソンに治療方針の確認を行っ ているも、終末期等についての意向の把握はこ れからである。		家族会等やアンケートを利用したキーパー ソンの意向の把握や、日常のかかわりを通じ た本人の意向の把握に努め、アセスメント内 容等の充実と情報の共有への取組みに期待し ます。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩である利用者に敬意を払い、言葉 使いを常に意識することにより、馴れ合いとな らない言葉かけが実践されていた。介護記録等 は、事務所に保管され一元的に管理されるな ど、個人情報に配慮した対応が見受けられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	食事にかかる時間、日中の過ごし方、入浴の 時間や入浴にかかる時間など、日常生活全般を 通じて、利用者一人ひとりのペースや状況に配 慮した支援が行われている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	利用者の出来る事を把握した上で、テーブル 拭きや下膳、食器洗い、食器拭きなどを協力し て行っていた。職員は利用者と同じテーブルを 囲み、利用者の話を傾聴し声かけしたり、さり げなく食事介助するなど、大家族の楽しい食事 風景であった。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	毎日、15時～21時までの間で入浴が可能であ る。入浴の回数や時間、順番などは、利用者の 希望や状況に応じて柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	活け花、食事の下準備、食器拭き、洗濯物た たみなど、利用者一人ひとりの出来ることに着 目しての支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常的な散歩や買物、地域高齢者への集いへ の参加、山笠見学など、利用者一人ひとりの状 況や希望に応じての支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されている。玄関ホールにセ ンサーを設置しており、職員は利用者の表情・ 様子を観察しながら、一緒に外出したり、電話 にて家族の声を聞いてもらうなど、利用者の自 由な暮らしと安全を支える取組みがある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	避難訓練時に、消防署職員からより安全に救 援を待つ方法等についてのレクチャーを受ける など、ホームの実情にそった指導が行われてい る。町内会長の参加が見られるなど、地域の協 力体制が得られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	今ある材料で、栄養バランスや見た目に配慮 したメニューを作成している。食事や水分摂取 量は毎回記録し、食事摂取量の少ない利用者 に対しては、何をどの程度摂取したかを記録し て、栄養補助食品を利用するなどの支援を行っ ている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには生け花が飾られ、庭に続く ウッドデッキにさりげなく置かれた玉葱や庭先 に干された洗濯物など、何気ない光景がホッと 心を和ませてくれる。利用者と職員との楽しげ な会話や利用者の表情から、居心地の良さが伺 える。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の居室には、テレビ、冷蔵 庫、仏壇、ベッドなど、思い出の品や使い慣れ た品が持ち込まれており、利用者の人柄が伺え る居室となっていた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号